

(資料2) シンポジウム講演スライド

シンポジウム「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究」

主催：日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会

後援：日本薬剤師会、日本病院薬剤師会

日時：平成30年2月11日13時～16時

会場：帝京大学板橋キャンパス 大学棟本館2階209講義室

参加費：無料

プログラム

<座長：遠藤一司、奥田真弘>

13:00 開会挨拶（趣旨説明）（15分）

安原真人（帝京大学薬学部）

13:15 プロトコールに基づく経口抗がん薬治療管理の効果を実証する調査報告（20分）

山本弘史（長崎大学病院臨床研究センター）

13:35 昭和大学横浜市北部病院地域での取組（15分）

縄田修一（昭和大学横浜市北部病院薬局）

村田勇人（クオール薬局港北店）

13:50 国立がん研究センター東病院地域での取組（20分）

松井礼子（国立がん研究センター東病院薬剤部）

下村直樹（日本調剤柏の葉公園薬局）

14:10 愛知県がんセンター中央病院地域での取組（10分）

立松三千子（愛知県がんセンター中央病院薬剤部）

秋山理恵（三聖堂薬局自由ヶ丘店）

14:20 休憩（15分）

<座長：高橋弘充、山本弘史>

14:35 薬剤師トレーニング用DVDの作成と評価（30分）

長久保久仁子（メディカルファーマシーミキ薬局）

15:05 特別講演：地域包括ケアの時代における薬剤師の活躍への期待（50分）

森 和彦（厚生労働省 大臣官房審議官（医薬担当））

15:55 閉会挨拶（5分）

遠藤一司（日本病院薬剤師会）

開会挨拶・趣旨説明

安原 真人

平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)シンポジウム

薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究

帝京大学 薬学部
安原 真人

2018年2月11日 帝京大学板橋キャンパス

1

年月	厚生省関係	その他
平成22年4月	医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」	
平成24年4月	診療報酬改定(病棟薬剤業務実施加算、在宅患者調剤加算新設)	
平成25年1月		医薬品インターネット販売訴訟最高裁判決
6月		日本再興戦略
7月		デフォルト事件京都府立医大調査報告
11月	薬事法改正(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律)	
12月	薬事法及び薬剤師法の一部改正(要指導医薬品)	
平成26年1月	薬局の求められる機能とあるべき姿	
平成27年2月		薬歴未記載問題
3月		規制改革会議公開ディスカッション「医薬分業における規制の見直し」
6月		経済財政運営と改革の基本方針2015
10月	患者のための薬局ビジョン	
平成28年4月	診療報酬改定(かかりつけ薬剤師指導料新設、大型門前薬局の評価見直し)	
6月	プロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)導入マニュアル	
10月	健康サポート薬局雇出開始	
11月	薬局の構造規制の見直し	
平成29年1月		ハーボニー配合錠偽造品流通
4月	臨床研究法	処方箋付け替え不正
9月		グレーゾーン解消制度による経産省回答
10月		財政制度分科会(調剤報酬の改革)
11月		経済財政諮問会議(経済財政一体改革)
12月	社会保障審議会医療保険部会・医療部会「平成30年度診療報酬改定の基本方針」	行政改革推進会議行政事業レビュー(調剤報酬)
平成30年1月	中薬協総会「平成30年度診療報酬改定に係るこれまでの議論の整理」	

行政改革推進会議 行政事業レビュー 平成29年度秋の年次公開検証
調剤報酬(調剤技術料) 取りまとめ

- 調剤技術料については、薬剤師・薬局によるサービスの対価としての観点から院内処方と院外処方のコスト差について十分に検証されていない。
- 薬局の実態として、厚労省がめざす「かかりつけ薬剤師・薬局」は現時点で少数派であり、今後も現在の調剤報酬体系のままでは、めざす姿に進んでいくとは見込み難い。門前薬局、大手調剤チェーン薬局の調剤技術料については、実態を踏まえると、一層引下げの余地がある。
- 調剤技術料が医科・歯科に比べ伸びていること、医薬分業が定着してきたこと、現在の調剤報酬体系が一部の先進的な薬剤師・薬局やあるべき理想像を基本にした報酬体系であると考えられることや、薬剤師・薬局の実態を踏まえると、真の患者のための「かかりつけ薬剤師・薬局」を進めるためにも、調剤技術料の全体的な水準の引下げを含め、メリハリのついた適正で効率的な調剤技術料の報酬設定とすべきである。

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gskaigi/dai29/siryou1.pdf>

● 厚生労働省医政局長通知 (平成22年4月30日)

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」

現行制度の下において薬剤師が実施することができる業務

- ① 薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーについて、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコールに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施すること。
- ② 薬剤選択、投与量、投与方法、投与期間等について、医師に対し、積極的に処方提案すること。
- ③ 薬物療法を受けている患者(在宅の患者を含む)に対し、薬学的管理(患者の副作用の状況の把握、服薬指導等)を行うこと。
- ④ 薬物の血中濃度や副作用のモニタリングに基づき、副作用の発現状況や有効性の確認を行うとともに、医師に対し、必要に応じて薬剤の変更等を提案すること。
- ⑤ 薬物療法の経過等を確認した上で、医師に対し、前回の処方内容と同一の内容の処方提案すること。
- ⑥ 外来化学療法を受けている患者に対し、医師等と協働してインフォームドコンセントを実施するとともに、薬学的管理を行うこと。
- ⑦ 入院患者の持参薬の内容を確認した上で、医師に対し、服薬計画を提案するなど、当該患者に対する薬学的管理を行うこと。
- ⑧ 定期的に患者の副作用の発現状況の確認等を行うため、処方内容を分割して調剤すること。
- ⑨ 抗がん剤等の適切な無菌調製を行うこと。

4

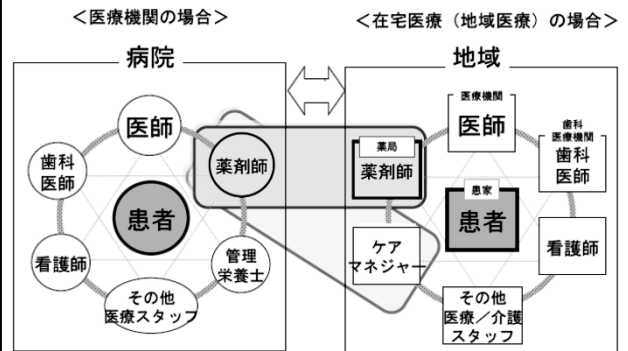
平成25年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究

- 研究代表者 安原 真人(東京医科歯科大学医学部附属病院)
分担研究者 佐々木 均(長崎大学病院)
吉山 友二(北里大学薬学部)
研究協力者 安部 好弘(日本薬剤師会常務理事)
奥田 真弘(三重大学医学部附属病院)
川上 純一(浜松医科大学医学部附属病院)
北田 光一(日本病院薬剤師会会長)
鈴木 洋史(東京大学医学部附属病院)
土屋 文人(日本病院薬剤師会副会長・日本薬剤師会副会長)
中澤 一純(日本医療薬学会事務局長)
橋田 亨(神戸市立医療センター中央市民病院)
舟越 亮寛(大船中央病院)
松原 和夫(京都大学医学部附属病院)
宮崎 長一郎(長崎県薬剤師会会長・日本薬剤師会理事)

5

薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究



平成25～27年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

チーム医療

医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること

チーム医療の推進に関する検討会報告書(平成22年3月19日)

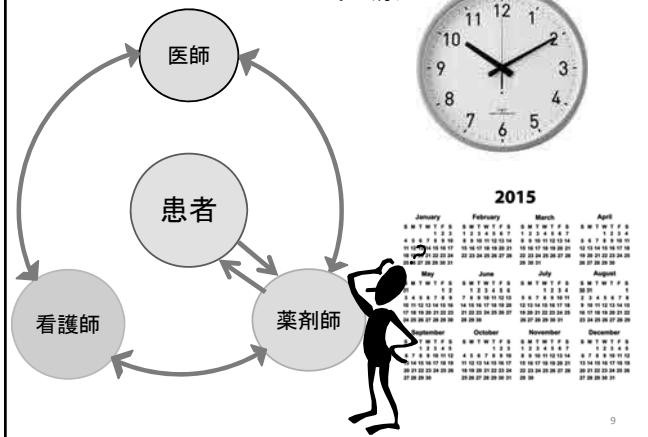
7

チーム医療推進分担研究

- プロトコルに基づく薬物治療管理(PBPM)
- チーム医療によるアウトカム評価
 - 医療の質
 - 安全性
 - 経済性
 - 医療従事者の負担軽減
- 日本病院薬剤師会による実践事例収集
- 日本薬剤師会による実践事例収集

8

チーム医療



9

薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究

平成25～27年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

平成27年度: 実践的方法論

平成26年度: アウトカム評価

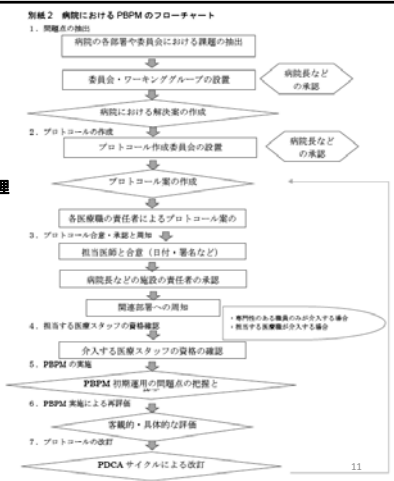
平成25年度: 先行事例収集

10

プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM) 導入マニュアル Ver.1

平成28年3月26日

一般社団法人 日本医療薬学会



11

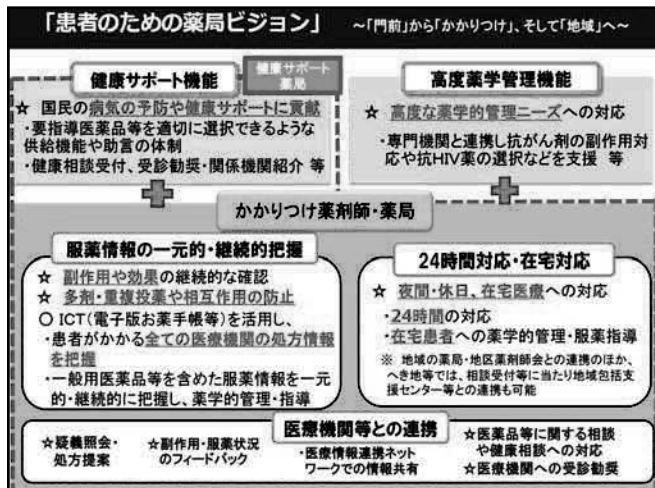
在宅(地域)医療推進分担研究

- かかりつけ薬局機能をもった在宅医療提供薬局を推進するための新たな基準作成

↓
薬局の求められる機能とあるべき姿
(平成26年1月)

- 地域包括ケアシステムの中でセルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方について調査・検討

12



健康サポート薬局数

全数 705 (平成29年12月28日現在)

北海道	28	東京都	71	滋賀県	11	徳島県	15
青森県	6	神奈川県	40	京都府	7	香川県	3
岩手県	1	新潟県	16	大阪府	80	愛媛県	10
宮城県	10	山梨県	8	兵庫県	3	高知県	2
秋田県	8	長野県	9	奈良県	6	福岡県	26
山形県	6	富山県	5	和歌山県	30	佐賀県	6
福島県	20	石川県	8	鳥取県	1	長崎県	3
茨城県	2.5	岐阜県	10	島根県	3	熊本県	2.1
栃木県	8	静岡県	10	岡山県	2.0	大分県	1.1
群馬県	10	愛知県	30	広島県	2.6	宮崎県	4
埼玉県	35	三重県	13	山口県	5	鹿児島県	10
千葉県	21	福井県	1			沖縄県	3

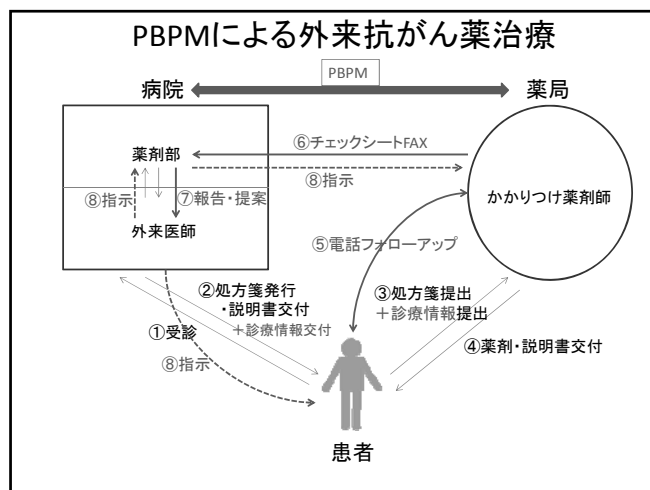
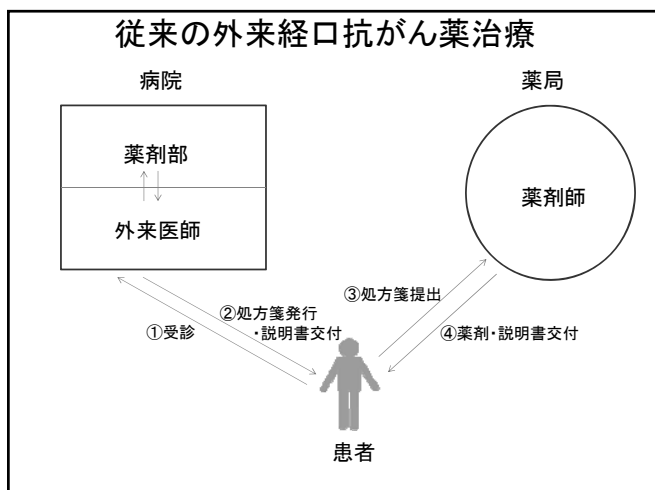
平成28-29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業

**薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携
手法の検討とアウトカムの評価研究**

1. PBPMを外来がん化学療法に適用するための標準手順の確立
2. PBPMによる医療機関と薬局間の連携のアウトカム評価
3. 連携を担う薬剤師養成のための教育資料の開発

研究班組織(日本医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会)

研究代表者	研究協力者	研究協力者	研究協力者
安原 真人	東京大学薬学部	田中 琢也	長崎大学病院消化器内科、がん診療センター
有澤 賢二	日本薬剤師会	山本 弘史	長崎大学病院 臨床研究センター
遠藤 一司	日本病院薬剤師会	佐々木 均	長崎大学病院 薬剤部
岡田 真弘	三重大学医学部附属病院	上田 真也	アビエ薬局
長久保 久仁子	メディカルファーマシーミキ薬局	天本 舞一郎	天本薬命堂調剤薬局
坂東 英明	国立がん研究センター東病院消化器内科	天本 祐世	天本薬命堂調剤薬局
松井 礼子	国立がん研究センター東病院薬剤部	中村 優	大浦中央調剤薬局
下村 直樹	日本調剤協会の薬公園薬局	徳岡 涼子	おおはま調剤薬局
大塚 貴孝	つくし薬局	丸山 重久	オランダ薬局
片倉 法明	つくし薬局北ヶ丘店	末吉 智行	オリーブ薬局
砂川 優	昭和大学横浜市北部病院内科	井手 厚子	和海岸通り薬局
奥田 修一	昭和大学横浜市北部病院薬局	福地 弘光	健康堂の下須賀薬局
村田 慎人	オパール薬局北店	井石 政之	サンタ薬局
平井 真弘	クオール薬局ツツミ店	吉岡 美沙紀	ちのけいふ薬局
藤田 大輔	橋本薬局 中川駅前薬局	廣石 しのり	とまと薬局
吉原 隆子	せせらぎ薬局	吉田 直樹	中村薬局ハヤマ店
三宅 智	東京医科歯科大学医学部附属病院腫瘍センター	田中 倫子	長崎薬局の花
楠竹 武之	東京医科歯科大学医学部附属病院腫瘍化学療法外科	地下 修平	西津上薬局
藤橋 弘光	東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部	柳野 謙	西陣津調剤薬局
永田 洋司	東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部	山口 隆史	野いちご調剤薬局
武田 浩文	東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部	池崎 尚子	浜口調剤薬局
新田 健太郎	東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部	原 英祐	はら薬局
樋口 朋子	きん薬局茶ノ水駅前店	大西 裕子	日之出調剤薬局
藤田 聖	おゆめの水産利徳本店	岡崎 敏雄	がんかの島調剤薬局
立松 三千子	愛知がんセンター中央病院 薬剤部	下坂 健	ミツバ子薬局片瀬店
水野 祥也	愛知がんセンター中央病院 薬剤部	宮崎 理恵	宮崎薬局
橋 清美	あすか薬局	宮崎 長一郎	宮崎薬局バス通り店
秋山 理恵	三聖堂薬局自由ヶ丘店	小林 文恵	やすらぎ薬局
森 敏行	エム・エム薬局自由ヶ丘店	竹中 清美	おむろ薬局
中嶋 麻枝子	日本調剤徳川山薬局	水嶋 直文	ライン薬局
玉水 隆	たまみず薬局	今川 文男	あいらず薬局
内野 謙司	オパール薬局自由ヶ丘店	原 明介	三益堂薬局
関子 幸生	ゆきの山薬局	秋吉 隆治	だいち心薬局
前田 理沙	プラワー薬局丸の内店	今泉 崇子	ななしま薬局
廣谷 貴史	プラワー薬局砂田店	水野 和貴	丸一薬局
日高 和	長崎大学病院腫瘍科	藤野 リエ	リへ薬局
小林 和真	長崎大学病院移植・消化器外科	星 隆弘	日本医療薬学会



PBPM用資料

- 病院用テレフォンプォローアップの手順書
- 薬局用テレフォンプォローアップの手順書
- テレフォンプォローアップ実施時の副作用確認の手引き書
- 患者情報提供用紙 (病院→薬局、お薬手帳貼付用)
- お薬サポートダイヤル予約票
- トレーシングレポート

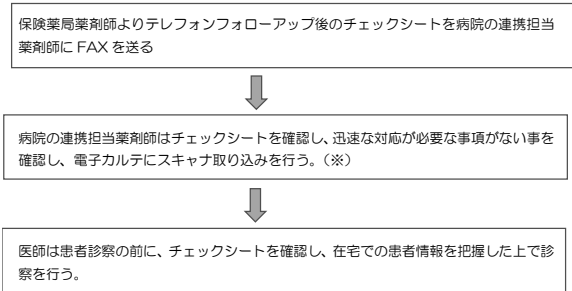
病院用テレフォンプォローアップの手順書

(東京医科大学承認番号M2016-184)

- 【目的】**
患者の選定、同意取得、患者匿名化、保険薬局との連携の手順
- 【患者の選定】**
- ① S-1、カヘシタピン単剤療法又は、それらを含む注射薬抗がん剤の併用シメジメンが施行されている患者を対象とし、治療開始時点、治療中の時点もいずれも対象とする。しかし、本研究の目的として、積極的に副作用を顕著する観点より、治療開始時又は治療開始から1か月以内の患者を優先的に選定する。
 - ② 患者への同意説明を開始する前に、患者のかかりつけ薬局が本研究の参加薬局であることを確認する。患者のかかりつけ薬局が本研究の参加薬局ではない場合は、対象としない。
- 【同意取得】**
病院薬剤師より、同意説明文書を用いて説明を行い、書面にて同意を取得する。
同意文書は説明薬剤師および患者の署名ののち、複写し、オリジナルを病院に保管し、複写したものを患者に返す。
- 【患者匿名化】**
患者と識別コード（患者ID）が連続出来る参加者リストを作成する。（連絡可能匿名化）
患者を特定するアルファベット1文字と、患者登録順につける連番の組合せで患者IDとする。患者を特定する情報（氏名、生年月日など）と患者IDの対応を対応表に記録する。この対応表は、患者の治療等のために当該保険薬局と情報を共有する際にも使用するほかは、患者の個人情報と異なるよう、厳重に院内で管理する。
- 【保険薬局との連携】**
- Ⅰ. 来院当日
 - 患者より同意を得た場合は、下記を患者に渡し、保険薬局へ提出してもらう。
 - ・ 同意説明文書（患者IDを記入）
 - ・ お薬手帳
 - ※ 薬手帳には、患者の癌種、治療シメジメン名、治療スケジュール、投与量を確認するために必要な情報及び治療法の内容を記載したシールを貼付する。
 - Ⅱ. テレフォンプォローアップのチェックシート受領時（保険薬局よりFAX）
病院の連携担当薬剤師はチェックシートの記載内容の確認を行う。
 - ① 迅速な対応が必要な事項がない場合は、チェックシートに特に問題がない旨を記載し、電子カルテにスキャプ取り込みを行う。
 - ② 迅速な対応を行った場合は、対応内容を記載し、電子カルテにスキャプ取り込みを行う。
 - ③ 電子カルテの読み取り後は、チェックシートに記載された患者IDが正しいことを確認し、チェックシートのうち、患者を特定出来る情報欄（氏名、生年月日、電話番号等）をマスキングして読み取りに専念した旨を研究事務局（長崎大学病院臨床研究センター）へ送付し、原本は保管する。
 - ④ 保険薬局からの連携にて、迅速な対応に至った事例に関しては別途定める様式に対応の概要を記入する。この対応についての記載は、患者IDを付して、個人情報と特定できる情報をマスキングし、研究事務局へ送付する。

テレフォンプォローアップ後の連携の具体的なフロー

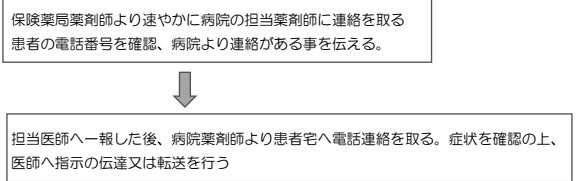
◎テレフォンプォローアップ後のチェックシートの連携



- ※ もし、病院の連携担当薬剤師が、チェックシートの記載から迅速な対応が必要な可能性があるとして独自に判断した場合は、速やかに保険薬局と連絡をとり、情報交換して、改めて対応を決める。
- ※ 病院に FAX が届かなかった際は、薬局への問い合わせを適宜行う。

◎重篤な副作用が発現していた場合の連携

■ 次ページ以降、黄色で示した症状が認められた場合の対応（TMDU の場合）



プロトコルに基づく経口抗がん薬

治療	グレード1	グレード2	グレード3	用語の定義（注釈）	
				グレード1	グレード2
S-1	摂食習慣に影響のない食欲低下	軽微な体重減少、脱水または	重度な体重減少、脱水または	摂食習慣に影響のない食欲低下	軽微な体重減少、脱水または
	軽微な体重減少、脱水または	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する	重度の疼痛：経口摂取に支障がある	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する	重度の疼痛：経口摂取に支障がある
CTC-NE	症状がない、または軽度の症状がある。治療を要さない	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する	重度の疼痛：経口摂取に支障がある	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する	重度の疼痛：経口摂取に支障がある
	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する	重度の疼痛：経口摂取に支障がある	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する	重度の疼痛：経口摂取に支障がある	中等度の疼痛：経口摂取に支障がない食事の変更を要する
具体的症状	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない
	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない	食事の摂取が可能なものの、劇激物や固形物、熱いものが摂取出来ない
患者対応	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す
	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す	・ネキサルチン軟膏などの所帯があれば使用を促す
一般的アドバース	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ
	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ	・嘔を伴い、口腔内を清潔に保つ
HFS	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 1	Grade 2
	Grade 1	Grade 2	Grade 3	Grade 1	Grade 2

薬局用テレフォンプォローアップの手順書

(東京医科大学承認番号M2016-184)

- 【テレフォンプォローアップ対象患者の初回来院時】**
- ① 受付の際にS-1、カヘシタピンを含む処方箋と同意書（病院保存用）を同時に提出された患者については、随前前確認の際に、病院での説明で納得していることを確認し、もし追加の質問への回答が必要であれば対応したのち、同意書（薬局保存用）への署名をお願いします。
 - ② S-1またはカヘシタピンを含む処方箋を提出したが、同意書を提出しない患者については、念のために、随前前確認時に確認する。テレフォンプォローアップを希望しない患者は、研究の対象とはしない。2度目以降の来院時に容易に確認が可能なよう、薬歴簿などに研究参加の旨を記載する。（※）
 - ③ 研究参加の患者から、相談サポート時に署名済みの同意書を受け取り、サポートを行う。
 - ④ サポートの際にテレフォンプォローアップの日程を決定し、「お薬サポートダイヤル予約表（TS1）（ゼロータ）」に記載し、お薬手帳に貼付する。
- （※）病院で説明同意文書を選ばれていなかったが、保険薬局ではテレフォンプォローアップが必要と判断され、かつ、患者もこれを希望する場合は、研究外で、個別に、実診等で、随前前確認電話連絡を行う。また、緊急対応した事例については、同意取得するまでは、研究対象の患者として取り扱うことはできない。
- 【テレフォンプォローアップ対象患者の2回目以降来院時】**
- ① 薬歴簿の記載等で、研究参加が確認されている患者については、初回と同様にテレフォンプォローアップを実施する。
 - ② テレフォンプォローアップの実施は、3か月を目安とするが、患者の状況などによっては、必要に応じて延長することも考慮する。
- 【テレフォンプォローアップの実施】**
- ① 予約日にチェックシートを参照しながら、テレフォンプォローアップを行う。次回受診の前に、再度、電話による確認が必要と判断される場合は、その日程を決めて、対応する。
 - ② テレフォンプォローアップ実施後、チェックシートを見直し、確認漏れの事項についてもその旨の記載を行う。必要と判断される場合は、再度、電話する。
 - ③ Grade3以上の有害事象等で、チェックシートの緊急対応が必要な場合に該当する場合は、チェックシートを病院へFAXするとともに、直ちに医療機関の事前に取り決めた部署へ電話連絡を行う。また、緊急対応した事例についてのサマリを作成する。
 - ④ 緊急対応に該当しなかった場合は、記入したチェックシートを病院へFAXで送付する。

患者情報提供用紙(病院→薬局、お薬手帳貼付用)

様 (ID)

治療に関する情報 (年 月 日)

①治療スケジュール

- ・レジメン名 (薬名): SOX (大綱)
- ・スケジュール (3 週間ごと)
- S-1: 80mg / ml
- day1 夕食後～day15 朝食後
- 計剤アット: 130 mg/ml
- day1 (点滴静注)

- ・治療期間: 前後補助 (全 四)
- 治療効果を見ながら継続

②病院から患者さんへの説明 (病状説明書)

- メーカーパンフレット
- 病院指定資料 ()
- 検査結果 (薬局で確認をお願いします)

③患者さんの情報と薬局へのお願ひ事項

身長: 体重: 体表面積:

★投与量や注意が必要な疾患に関する情報

連絡先: 昭和大学横浜市北部病院 薬局
化学療法担当 045-949-7486 (平日9時～17時)

④支持療法などに関する情報

連絡先: 昭和大学横浜市北部病院 薬局
化学療法担当 045-949-7486 (平日9時～17時) 25

お薬サポートダイヤル予約票

お薬サポートダイヤル 予約票

年 月 日 () 時～ 時

対症薬剤師

〇〇薬局
電話番号
FAX

テイエステロン服用後の状況をお伺いします。
飲み忘れた回数
下痢
吐き気・食欲不振
口内炎
皮膚の状況
だるさ
眼の症状
その他メモ

※サポートダイヤル後、お薬手帳に貼ってください。

お薬サポートダイヤル 予約票

年 月 日 () 時～ 時

対症薬剤師

〇〇薬局
電話番号
FAX

ゼローダ服用後の状況をお伺いします。
飲み忘れた回数
手足の症状
口内炎
下痢
吐き気・食欲不振
むくみ
その他メモ

※サポートダイヤル後、お薬手帳に貼ってください。

担当薬剤師	担当薬剤師 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	担当薬剤師 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)
担当薬剤師	担当薬剤師 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	担当薬剤師 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)
担当薬剤師	担当薬剤師 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	担当薬剤師 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)

<13:00-14:20 座長:遠藤一司、奥田真弘>
 開会挨拶 (趣旨説明) 安原真人 (帝京大学薬学部)

講演1 プロトコールに基づく経口抗がん薬治療管理の効果を検証する調査報告
 山本弘史 (長崎大学病院臨床研究センター)

講演2 昭和大学横浜市北部病院地域での取組
 縄田修一 (昭和大学横浜市北部病院薬局)
 村田勇人 (クオール薬局港北店)

講演3 国立がん研究センター東病院地域での取組
 松井礼子 (国立がん研究センター東病院薬剤部)
 下村直樹 (日本調剤柏の葉公園薬局)

講演4 愛知県がんセンター中央病院地域での取組
 立松三千子 (愛知県がんセンター中央病院薬剤部)
 秋山理恵 (三聖堂薬局自由ヶ丘店)

休憩 (15分)

<14:35-16:00 座長:高橋弘充、山本弘史>
 講演5 薬剤師トレーニング用DVDの作成と評価
 長久保久仁子 (メディカルファーマシーミキ薬局)

特別講演 地域包括ケアの時代における薬剤師の活躍への期待
 森和彦 (厚生労働省 大臣官房審議官 (医薬担当))

閉会挨拶 遠藤一司 (日本病院薬剤師会)